

『武雄市図書館の雑誌について』～ ある図書館関係者からの意見～

- 1 館内の検索機で、雑誌の検索ができない
- 2 WEBの検索で「在架」の雑誌が、実際には存在しない
- 3 蔵書点検の正確性に疑い
- 4 雑誌のバックナンバーに休館の時期の部分が存在しない
- 5 雑誌のバックナンバーの削減
- 6 読むことのできる雑誌の数も激減
- 7 CCCのノウハウが不足

1 館内の検索機で、雑誌の検索ができない

武雄市図書館の館内の検索機は、所蔵している雑誌の検索ができません。

WEBの検索では雑誌も検索できるにもかかわらず、このような仕様になっている理由は不明です。

館内の検索機には、雑誌が検索できないことについての表示はありません。

所蔵している雑誌を検索すると（例えば『現代農業』）、タイトルは表示されるものの、その部分をタッチすると、「所蔵なし」と表示されるため、利用者は「所蔵されていない」と誤解してしまいます。

筆者（利用者）に應對した図書館の職員も、館内の検索機で所蔵している雑誌の検索ができないことは把握しておらず、筆者（利用者）からの指摘で気がついた模様です。

筆者に應對した図書館の職員は、「図書館に所蔵されている雑誌は、新聞・雑誌コーナーにあるものだけです」と説明しました。

実際にそうであるとしても、館内の検索機で、雑誌が検索できないことを正当化するものではありません。最新号以外の雑誌は、蓋を開けた中に置いてあり、いちいち開かないと確認できません。また、貸出もしているわけですから、雑誌の正確な所蔵状態は検索機でないとわからないのです。

また、多くの図書館では、館内検索機によって、雑誌の内容からも検索ができますが、当然、このようなこともできません。

武雄市図書館の館内の検索機で、雑誌の検索ができないということは、武雄市図書館のシステムに重大な欠陥があるとしか考えようがありません。

2 WEBの検索で「在架」の雑誌が、実際には存在しない

WEBの検索では、「在架」として表示される雑誌について、図書館の職員から、「存在しない」と言われたものがあります。

例えば、WEBの検索では、『歴史九州』という雑誌を検索すると、2000年12月号だけが所蔵されているように

表示されますが、図書館の職員からは、「所蔵していない」と言われました。

「WEBの検索では在架になっていますが。」と伝えると、しばらく待たされた後、「確かにWEBでは表示されますが、所蔵はしていません。システムセンターに確認してみます。」との答えでした。

武雄市図書館を訪ねたのは、7月15日のことでしたが、8月1日現在、未だに、WEBの検索では、『歴史九州』の2000年12月号は「在架」と表示されています。

いままでの状態も異常と言えるものですが、存在しない（少なくともその場では提供できなかった）雑誌を、そのまま、「在架」としていることは、普通の図書館ではありえない、きわめて異常なことです。

雑誌に限らず、図書館の資料は、正しい配架場所に戻されていなければ、所在不明になってしまいます。実際に利用者が無断で持ち帰っているのか、単に違った場所に戻っているのかはわからないにしても、探している利用者に提供できなかった時点で、その資料は「不明」です。そこに「ない」ことが確認されているわけですから、「在架」ではありません。当然、次に別の利用者がその資料を利用したいと希望しても、見つかりません。

なぜ、このような普通の手続きをとらないのかについても、理由は不明です。

しかし、武雄市図書館が資料の不明について、全く対応しないということは、利用者に対して不誠実であることは明白です。

筆者は、新幹線と特急を乗り継いで武雄市図書館を訪れました。WEBの検索で表示される結果が普通の図書館ではありえないような状況であったので、実際には雑誌がないかもしれないとも考えていました。しかし、実際にこのような状況を確認して、まさか、という気持ちのほうが大きいところです。

武雄市図書館は、県外からも利用者が来ることを盛んに宣伝しています。遠方より訪れた利用者に対して、当たり前のように、探している資料がないという答えが返ってくるのは、非常に残念です。図書館の職員としての意識も疑いたくなりますが、このように回答せざるを得ない状況が、武雄市図書館にあるのだとも感じました。

このように信頼性のないWEB検索を放置することは、武雄市図書館のみならず、全国の図書館の信頼を損ないます。

3 蔵書点検の正確性に疑い

『歴史九州』は、実在しないのが正しいとすれば、なぜ、それがWEB検索では表示されるのでしょうか。理由はわかりませんが、改装後の開館時から、このような状態であること自体が異常です。

武雄市図書館では、蔵書点検による休館はせずに、年中無休で開館するとしています。蔵書点検自体は、人海戦術で徹夜で実施すれば一晩でも可能ではありますが、このような状態がすでにあるなかで、正しい蔵書点検ができるのか、疑問が生じます。

雑誌だけでなく、図書においても、「ある」と表示された資料が、実際には「ない」場合が増加するのではないかと懸念されます。

4 雑誌のバックナンバーに休館の時期の部分が存在しない

武雄市図書館に所蔵されている雑誌については、バックナンバーの所蔵状況も異常です。

寄贈と思われる『MAMOR』を除く全ての雑誌について、改装中の5か月分が受入されていません。

普通の図書館であれば、欠号を発生させないように努めますが、そのような配慮は全くなされていません。さらに、『図書館雑誌』にいたっては、年度契約ですから、改装中も雑誌は送付されているはずですが。

改装中の武雄市の逐次刊行物の管理が杜撰であったことを示しています。

この時期は、指定管理者がCCCに移る前のことですが、このような状況を引き継いだCCCも意識が低いと言わざるを得ません。武雄市に改善を要求すべきでした。

5 雑誌のバックナンバーの削減

また、雑誌の受入タイトルが、従来の107タイトル（報道による）から30タイトルくらい（そのうち、購入は20タイトルくらいと推定されます）と、大幅に減少しています。

それだけでなく、従来から受け入れている雑誌についても、改装前のホームページでは3年保存、10年保存になっているもののなかで、今年の4月号からでしか保存されていないものがあります。（3年は『こどものとも』、『きょうの料理』など、10年は『現代農業』。）特に『現代農業』のバックナンバーは、農家の人に重宝される資料であり、武雄市図書館に必要な資料です。利用は確かに少ないとは思いますが皆無ということはありません。処分してよいものではないはずです。

どうしてこれほどまでに、バックナンバーを処分してしまったのでしょうか。スペースが足りないといっても、雑誌架の中は、どれもスカスカです。『こどものとも』は、薄いですから、例え3年分でも中に収まるはずですが。

また、雑誌架でなくても、書架の上部には、ダミーの箱が置かれています。このスペースに置くこともできたはずですが。

武雄市図書館が手本としてはずの代官山蔦谷書店では、『アサヒカメラ』や『ダ・カーポ』などの古い雑誌が雰囲気作りとして、書架の上部に置いてあります。どうして、このようなところを真似できなかったのでしょうか。

雑誌のバックナンバー削減は、代官山蔦谷書店をイメージして来館した利用者にとっても、裏切り行為です。

6 読むことのできる雑誌の数も激減

ホームページの保存年限等を考慮すると、改装前の図書館には、3800冊強の雑誌が所蔵されていました。そして、現在の雑誌の数は、図書館の職員が説明するように、雑誌コーナーの雑誌だけであれば、150冊弱となります。

武雄市側は、書店で販売されている雑誌が600タイトル以上あるので、改装前の図書館に比べて、読むことのできる雑誌のタイトルは大幅に増加したと宣伝しています。

しかし、それは最新号に限った話であり、読むことのできる雑誌で数えれば、1/4以下にまで減少しています。

さらに、借りることのできる雑誌としては、改装前3500冊（館内利用のみの雑誌があるため）に比べて改装後は120冊として、1/25以下にまで減少しています。

例えば、普通の図書館では、おせち料理の作り方について、『きょうの料理』の最新号は借りることができなくても、昨年、一昨年の同時期の号を借りることができそうですが、武雄市図書館では、そのような利用もできなくなりました。

このように、図書館における雑誌の利用は、普通の図書館では、最新号に限った話ではありません。大規模書店でも、バックナンバーを常備しているタイトルは限られています。

例えば、ここ1年の間にどのような教育問題の雑誌報道があったか、ということを知りたいと思っても、武雄市図書館では不可能です。

7 CCCのノウハウが不足

普通の公共図書館では当たり前である雑誌の取り扱いが、武雄市図書館では、なぜ、できないのか。これは利用者からはわかりません。

ただ、書店では、雑誌はほとんど最新号のみの取り扱いで、図書館におけるような雑誌の取扱いはしていませんので、ノウハウが不足していると推測できます。

「ツタヤは大企業なので、経験のない図書館業務もそつなくこなす」というのが図書館側の一般的な見方でしたが、雑誌については、経験不足が露呈していると考えられます。

以上